

建学の精神を堅持しつつ本学の教育改革をさらに推進してまいります

帝京平成大学（以下、「本学」という。）は、昭和 62(1987)年の開学以来、「実学の精神を基とし 幅広い知識と 専門分野における実践能力を身につけ 創造力豊かな逞しい 人間愛にあふれた 人材を養成する」を建学の精神として掲げ、「実学の精神」を根幹に据えた教育・研究活動を実践してまいりました。

一般に、「実学」とは社会において実際に役に立つ学問を意味しています。しかし、本学における「実学の精神」は、単に社会で役立つ学問を重視するというだけのものではありません。「幅広い知識」と「専門分野における実践能力」を二つながら身につけることによって、はじめて本学における「実学」が実現されると考えております。

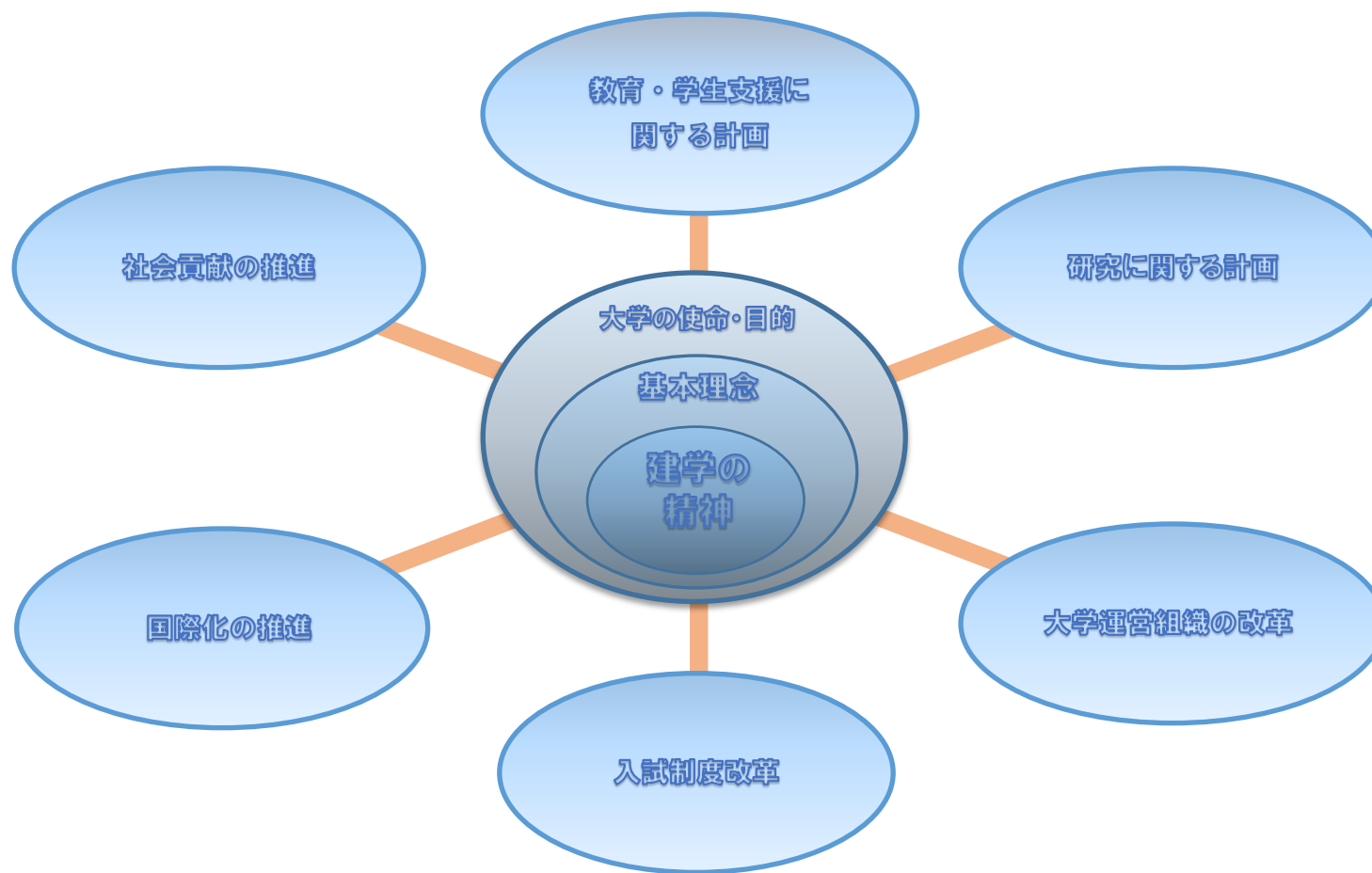
現代社会で求められる知識や技術は、日々急速な進歩を遂げています。いかなる専門知識・技術であっても、ある時点で止まってしまえば、いずれ陳腐化し、無用化します。常に新しい知識・技術を柔軟かつ継続的に取り込み、自己を高めていく必要があります。そして、そのための基盤となるのが「幅広い知識」＝「教養」なのです。また、このようにして身につけた知識・技能を実社会で発揮するためには、与えられた課題を解決するための柔軟な発想力、厳しい状況においても屈することのない逞しい精神力、周囲の人々を思いやる優しい心づかいなどが求められます。これらの人間的な能力や資質を培う基盤としても、「教養」は重要な役割を担っています。

現代社会の状況は、高度情報化社会、グローバル化社会、そして昨今では多様性（ダイバーシティ）社会などといわれるように、従来のパラダイムではとらえきれないものとなってきています。このような状況から、現代は先の見えない時代である、ともいわれています。そして、このような時代であるからこそ、単に知識・技術を身につけるだけでなく、総合的な学士力を兼ね備えた人材が求められているのです。これは、まさに「実学の精神」を基底に据えた本学の「建学の精神」が目指す、養成すべき人材像と一致するものであります。

このことを踏まえつつ、本学では教育改革の方向性をより確固としたものとするために、教育および研究、学生への支援、社会への貢献、大学組織の改革、国際化の推進、入試制度の改革を主要な柱とした中長期計画を策定いたしました。今後も、「建学の精神」を堅持しつつ、この中長期計画の実現を目指して、本学における教育改革を推進してまいります。

帝京平成大学 学長 沖永 寛子

帝京平成大学 中長期計画・基本方針（平成 28 年度～平成 32 年度）



目 標	計 画
I. 教育・学生支援に関する計画	
1. 学士課程における教育内容の改善	
(1) 教育活動が大学の教育理念・目標を踏まえたものとなっているか検証評価し、教育の質を担保します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己点検評価の組織を整備する。 2. 教育と学生支援の内容を検証評価するために、大学と学部の方針を策定する。 3. 点検評価の結果に基づいて改善策を実行する組織を設け、教育活動の質を向上させる。
(2) 時代の変化に即応し、カリキュラムの改定と授業内容を見直します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. これからの医療において、他の医療職と連携し高い専門性を発揮できる医療人を養成する。【全学部】 2. カリキュラム改正に対応するため授業内容と方法を見直す。【看護学科・理学療法学科】 3. 観光立国、オリンピック・パラリンピックなどの国際的なイベントの開催に照準を合わせ、カリキュラム改定と授業内容・方法を見直す。【観光経営学科】
(3) 入学から卒業までの教育内容を体系的に学ぶことができるようにします。	<ol style="list-style-type: none"> 1. シラバスやカリキュラムマップの記載方法を定期的に見直す。 2. 体系的に学修することができるよう授業の実施方法を見直す。
(4) 単位の実質化を図ります。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の事前・事後学修時間を把握する。 2. 単位数に対して授業計画が適切か、シラバスを見直す。
2. 教育の実施体制	
(1) 教育開発・学修支援センター（仮称）を設立します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「教育開発・学修支援センター（仮称）」の設立に向け、教務委員会内の部会として教養教育部会を発足させ活動を開始する。教養教育部会は、FD 委員会と協同して「教育開発・学修支援センター」の準備室的役割を担う。 2. 医学教育センターを充実・強化する。基礎医学系と臨床医学系の科目担当教員間の情報交換や協力体制を密にするとともに、医療関連の多職種連携教育の一翼を担う。
3. 教育力の向上	
(1) アクティブラーニング型授業の導入を推進します。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題発見・解決に向けて学生が主体的に学ぶアクティブラーニング型授業について、教員の理解や実践に役立つ研修を実施する。

目 標	計 画
<p>(2) 学生による授業評価アンケート結果を授業改善とシラバス改善に結び付けます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業評価アンケート結果を授業改善に結び付けるための検討を継続する。 2. manaba course を利用した授業評価アンケートの実施に向けて、設問項目等を見直し、シラバス記載内容との関連性を高めることで、シラバスの改善と有効利用を推進する。
<p>(3) 公開研究授業を通して教員の教育力を高めます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生による授業評価の高い教員の授業を公開し、参考になる点を皆で学び、意見交換を行う。 2. 各自が関連科目の授業実態を知ること、自分の授業改善に役立てる。
<p>4. 教育環境の整備</p>	
<p>(1) 学修支援のため、ICT を活用した教育システムを構築します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課程を通じた学修の達成状況を、学生自らが点検し主体的に学ぶため、学修ポートフォリオを導入する。 2. 学習支援システム manaba course の効果的な活用を継続的に研究し、その活用手法を教員間で共有する。 3. 電子図書館機能の強化を図る。 4. ICT を活用した教育の際に不可欠なデジタル・ネットワーク時代の著作権に関する理解・知識を教職員と学生に浸透させる。
<p>(2) ファシリティマネジメントを積極的に推進することによって、学生及び教職員にとって魅力的な施設を提供するとともに、経営の効率化を図ります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ちはら台キャンパス内に建設中の女子学生寮によって、学生自身の自律性、協調性、寛容性の養成に努める。 2. 老朽化した施設・設備の更新及び拡充により満足度の高い教育研究環境を提供する。
<p>5. 学生支援の充実</p>	
<p>(1) 心身に問題を抱えた学生に対する相談体制を充実していきます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生支援に関連する部署の役割を明確にし、連携・協働して心身上の問題に当たる。
<p>(2) 経済的理由により修学が困難となった学生に対する支援を充実させます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 奨学金制度の拡充を図る。 2. 自然災害に対する支援を充実させる。
<p>(3) 就職・進学に対するサポート体制を強化します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生一人ひとりの多様なニーズに対応できるよう情報を収集し、就職活動の相談を充実させる。 2. 3年生のインターンシップへの参加率を現在の10%台から年々倍増させる。

目 標	計 画
Ⅱ. 研究に関する計画	
1. 研究拠点化の推進	
(1) 研究拠点の形成を図ります。	1. 社会的要請の高い研究を推進する。
2. 研究資金の確保	
(1) 教育の基盤となる研究の充実を図ります。	1. 外部研究資金の獲得に努める。
3. 産学連携活動の推進	
(1) 教育研究の成果を社会に還元し、地域社会及び医療・健康・福祉の発展に貢献します。	1. 研究成果を社会に還元するため、産学連携による共同研究、実用化研究を推進する。
Ⅲ. 社会貢献の推進	
1. 地域連携の推進	
(1) 地域の自治体及び企業との連携を強化します。	1. 人材・知財・施設を提供し、地域の課題解決に貢献していく。 2. 医療・健康・福祉に関する生涯学習および啓発活動を推進する。 3. 地域の活性化につながるイベントを企画し運営に協力する。
2. 産学連携活動の推進	
(1) 教育研究の成果を社会に還元し、地域社会及び医療・健康・福祉の発展に貢献します。	1. 研究成果を社会に還元するため、産学連携による共同研究、実用化研究を推進する。

目 標	計 画																								
3. ちば産学官連携プラットフォームへの参画																									
<p>(1) 千葉市内及び市原市内の教育機関における教育の魅力を高める取り組みに連携・協働していきます。</p>	<p>1. プラットフォーム大学間での単位互換推奨科目数を増やし、幅広い学びを提供する。</p> <p>2. プラットフォーム大学間での学生交流機会数を増やし、他大学の学び、他大学生からの刺激を自身の学びに活かす好循環を構築する。</p> <p>3. 産学官連携を基調としたプラットフォーム共同研究に参画し、まちの課題解決に貢献する。</p> <p>数値目標</p> <table border="1" data-bbox="1039 472 2116 767"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>取組指標 (単位)</th> <th>2018 年度 (初期値)</th> <th>2020 年度</th> <th>2025 年度</th> <th>2030 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>単位互換推奨 科目数</td> <td>0 科目</td> <td>5 科目</td> <td>5 科目</td> <td>5 科目</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学生交流企画数</td> <td>1 事業</td> <td>2 事業</td> <td>4 事業</td> <td>8 事業</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>共同研究数</td> <td>1 研究</td> <td>3 研究</td> <td>5 研究</td> <td>10 研究</td> </tr> </tbody> </table>	項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度	1	単位互換推奨 科目数	0 科目	5 科目	5 科目	5 科目	2	学生交流企画数	1 事業	2 事業	4 事業	8 事業	3	共同研究数	1 研究	3 研究	5 研究	10 研究
項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度																				
1	単位互換推奨 科目数	0 科目	5 科目	5 科目	5 科目																				
2	学生交流企画数	1 事業	2 事業	4 事業	8 事業																				
3	共同研究数	1 研究	3 研究	5 研究	10 研究																				
<p>(2) 千葉市内及び市原市内の高等教育機関の学生募集力を強化する取り組みに連携・協働していきます。</p>	<p>1. プラットフォーム共同で開催する進学説明会に参加する。</p> <p>2. プラットフォームでの共同高校訪問を実施する。</p> <p>数値目標</p> <table border="1" data-bbox="1039 1110 2116 1406"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>取組指標 (単位)</th> <th>2018 年度 (初期値)</th> <th>2020 年度</th> <th>2025 年度</th> <th>2030 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共同進学相談会 参加数</td> <td>0 回</td> <td>2 回</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>共同高校訪問 実施数</td> <td>1 回</td> <td>3 回</td> <td>4 回</td> <td>5 回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度	1	共同進学相談会 参加数	0 回	2 回	3 回	4 回	2	共同高校訪問 実施数	1 回	3 回	4 回	5 回						
項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度																				
1	共同進学相談会 参加数	0 回	2 回	3 回	4 回																				
2	共同高校訪問 実施数	1 回	3 回	4 回	5 回																				

目 標	計 画																																				
<p>(3) 千葉市内、市原市内及び千葉県内に所在する地元企業への就職率を向上させる取り組みに連携・協働していきます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 千葉市内就職率の向上をはかる。 2. 千葉県内就職率の向上をはかる。 3. プラットフォーム主催の合同企業説明会に参加し、その参加者数を増やす。 4. 市原市内就職率の向上をはかる。 5. 市原市連携協力学内合同就職説明会の参加者数を増やす。 <p>数値目標</p> <table border="1" data-bbox="1039 459 2114 903"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>取組指標 (単位)</th> <th>2018年度 (初期値)</th> <th>2020 年度</th> <th>2025 年度</th> <th>2030 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>千葉市内就職率</td> <td>13.3%</td> <td>14.0%</td> <td>14.5%</td> <td>15.0%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>千葉県内就職率</td> <td>44.53%</td> <td>45%</td> <td>45.5%</td> <td>46%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>PF 企業説明会 参加者数</td> <td>(2019年3月 開催)</td> <td>80名</td> <td>90名</td> <td>100名</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>市原市内就職率</td> <td>4.1%</td> <td>4.5%</td> <td>5.0%</td> <td>5.5%</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>市原市就職説明会 参加者数</td> <td>54名</td> <td>70名</td> <td>80名</td> <td>90名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	取組指標 (単位)	2018年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度	1	千葉市内就職率	13.3%	14.0%	14.5%	15.0%	2	千葉県内就職率	44.53%	45%	45.5%	46%	3	PF 企業説明会 参加者数	(2019年3月 開催)	80名	90名	100名	4	市原市内就職率	4.1%	4.5%	5.0%	5.5%	5	市原市就職説明会 参加者数	54名	70名	80名	90名
項目	取組指標 (単位)	2018年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度																																
1	千葉市内就職率	13.3%	14.0%	14.5%	15.0%																																
2	千葉県内就職率	44.53%	45%	45.5%	46%																																
3	PF 企業説明会 参加者数	(2019年3月 開催)	80名	90名	100名																																
4	市原市内就職率	4.1%	4.5%	5.0%	5.5%																																
5	市原市就職説明会 参加者数	54名	70名	80名	90名																																

目 標	計 画																														
<p>(4) 人生 100 年時代において、生涯学習や社会人の学び直し機会を積極的に提供する取り組みに連携・協働していきます。</p>	<p>1. 千葉・ちはら台キャンパス公開講座実施数を増やし、地域の様々なニーズに対応する。</p> <p>2. 公開講座受講者数を増やし、地域と大学の結びつきを強化する。</p> <p>3. 健康寿命増進のためのプラットフォーム企画に参画し、地域の健康づくりに貢献する。</p> <p>4. プラットフォーム共同で運営する社会人向け講座開催（ちば学）に参画し、本学の人的、知的資源を地域に還元する。</p> <p>数値目標</p> <table border="1" data-bbox="1039 461 2114 805"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>取組指標 (単位)</th> <th>2018 年度 (初期値)</th> <th>2020 年度</th> <th>2025 年度</th> <th>2030 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>公開講座実施回数</td> <td>4 回</td> <td>6 回</td> <td>8 回</td> <td>10 回</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>公開講座受講者数</td> <td>(2018 年度 集計中)</td> <td>400 名</td> <td>600 名</td> <td>800 名</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>参加企画回数</td> <td>1 回</td> <td>3 回</td> <td>5 回</td> <td>7 回</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>講師派遣数</td> <td>0 名</td> <td>1 名</td> <td>3 名</td> <td>5 名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度	1	公開講座実施回数	4 回	6 回	8 回	10 回	2	公開講座受講者数	(2018 年度 集計中)	400 名	600 名	800 名	3	参加企画回数	1 回	3 回	5 回	7 回	4	講師派遣数	0 名	1 名	3 名	5 名
項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度																										
1	公開講座実施回数	4 回	6 回	8 回	10 回																										
2	公開講座受講者数	(2018 年度 集計中)	400 名	600 名	800 名																										
3	参加企画回数	1 回	3 回	5 回	7 回																										
4	講師派遣数	0 名	1 名	3 名	5 名																										
<p>(5) 千葉市内及び市原市内の高等教育機関の教育・研究活動を通じて、千葉市域が抱える課題解決に関わり、「まち」としての魅力を高める取り組みに連携・協働していきます。</p>	<p>1. 学生・教員の派遣による「防災・救命・安全」講習会を主催し、安全、安心なまちづくりに寄与する。</p> <p>2. 「地域イベント（東京 2020 大会に関連する企画・取り組み等）」への学生ボランティア派遣を推進する。</p> <p>数値目標</p> <table border="1" data-bbox="1039 1098 2114 1295"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>取組指標 (単位)</th> <th>2018 年度 (初期値)</th> <th>2020 年度</th> <th>2025 年度</th> <th>2030 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講座実施回数</td> <td>2 回</td> <td>3 回</td> <td>3 回</td> <td>3 回</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>参加イベント回数</td> <td>9 回</td> <td>10 回</td> <td>10 回</td> <td>10 回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度	1	講座実施回数	2 回	3 回	3 回	3 回	2	参加イベント回数	9 回	10 回	10 回	10 回												
項目	取組指標 (単位)	2018 年度 (初期値)	2020 年度	2025 年度	2030 年度																										
1	講座実施回数	2 回	3 回	3 回	3 回																										
2	参加イベント回数	9 回	10 回	10 回	10 回																										

目 標	計 画
IV. 大学運営組織の改革	
1. 組織の改革	
(1) 学部・学科・研究科等を改編します。	1. グローバル化や産業構造など、社会の変化に対応するため、学部・学科・研究科等の改組・改編について検討する。
(2) 大学の運営に関する危機管理体制の強化を図ります。	1. 自然災害等の緊急時に迅速な対応ができるように、危機管理体制を強化する。 2. サイバー攻撃等を想定し、セキュリティ対策を行い、事業の安全性と継続性を担保する。
2. 自己点検・評価活動の推進	
(1) 自己点検・評価を行い、大学運営の改善に反映させます。	1. 自己点検・評価を定期的実施し、恒常的な PDCA 実施体制を確立する。
(2) 教育研究活動等の情報の公表に努め、高等教育機関としての社会的説明責任を果たします。	1. 情報公開及び広報活動の内容・方法を点検し、改善を行う。 2. 多様な手段を用いて、大学の教育研究に関する広報活動を行う。
3. 安定した財務基盤の維持	
(1) 志願者増・学生確保に取り組めます。	1. 優秀な学生を継続的に確保するため、広報活動を強化するとともに、多様な学生に対応した入試制度を整備する。 2. 通信教育の課程・制度を検討し、志願者を増加させる。
4. SD（スタッフ・ディベロップメント）の推進	
(1) 教職協働体制をさらに推進します。	1. 教職協働で新しい課題に取り組む組織を構築していく。
V. 国際化の推進	
1. 海外大学との交流	
(1) 海外大学との提携を推進し、学生や教職員の交流を促進していきます。	1. 提携先の拡充を推進する。 2. 学生や教職員の派遣、交流を支援する体制を構築する。

目 標	計 画
2. 海外交流の促進	
(1) 国際的な視野と感覚を養うため、国際教育プログラムを充実させます。	1. 外国人留学生の受け入れを促進する環境を整備する。 2. 国際社会で活躍できる人材養成を推進する。
VI. 入試制度改革	
1. 入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）に基づいた入学者選抜の実施	
(1) 入学者受入れの方針に基づいた適切な学生募集の展開及び入学者選抜を実施します。	1. 入学者受入れの方針が卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえているかを点検する。 2. 入学志願者に対して、入学者受入れの方針に関する情報の提供を行う。
2. 新たな入試改革を見据えた高大接続の推進	
(1) 高校生の学習・進学に対する意欲向上を目的として、高大連携を検討していきます。	1. 高等学校の教育を踏まえた入学者選抜体制を整備する。